



「棕の木とケヤキ物語」

本日は、「棕の木とケヤキ物語」と言う DVD を皆さんに見ていただこうと思います。

これはたつの市新宮町の「新宮八幡神社」のムクノキとケヤキの話です。

今年の12月に相生であります西播第2グループのIMのテーマである「私たちの巨樹と気候風土」、サブテーマが「環境や生物多様性の重要性について」、半田ガバナー補佐様の文章では「地球上で最も大きく寿命の長い生物である巨樹について、私たちの身近にある木々を調べます。巨樹はその地域社会で認められ独自の名前を持つことも多く、畏怖の念から時に信仰の対象となり、伝承を有することもあります。明治維新後の神社合祀により多くの鎮守の社が失われましたが、中には人々の尽力で生き延びた木々もありました。私たちの身近な巨樹について理解を深め、気候風土、環境問題、生態多様性にまで話題を展開できればと思います。」と書かれております。

私は、このDVDを見た時に上記のテーマそのものだと思いましたのでこの度、紹介させていただきます。

このDVDを作成されたのは新宮町在住の名村一義さんという方で、長年にわたり新宮町や龍野の風景を写真や映像に撮り続けておられます。

約18分の少し長い動画になりますが、ご覧ください。



新宮八幡神社のムクノキとケヤキ



アオバズク成鳥 (オス)



巣穴から顔を出すフクロウの雛



アオバズクの巣立ち雛



フクロウの幼鳥

このように大樹は人の心だけではなく野鳥のような生物も育てていく大切な存在です。

話は変わりますが、姫路市には「姫路市自然保護条例」というものがありまして、第9条に「市長は、良好な自然環境を保護するため次に掲げる区分及び態様により保護すべき地区、樹木及び動植物を指定することができる。」とあります。

その中で、「市民に親しまれ若しくは由緒由来がある樹木、すぐれた美観を呈する樹木又は貴重な樹木で保護することが必要な樹木」を保存樹として指定しております。

現在、単独樹木だけで167本あり保護されておりますが、そのような取り組みを各市町も推進していくことも大切ではないでしょうか。